

甲州歴史ロマンの旅



シャインマスカットブドウ狩り園
お洒落なJUNワイナリーを訪ねる



pixta.jp - 3218419

- ◆ 開催日 平成 30 年 9 月 26 日 (水)
- ◆ 集合場所：練馬文化会館入り口前 6 時 40 分
見学地到着時間：中央道・勝沼インター 9 時 30 分頃
参加費 10,000 円、(ランチ・保険料・拝観料を含む)
《コース》
ぶどう寺(国宝)大善寺～坂本ぶどう狩り園～シャトー勝沼～
ーランチ「レストラン鳥居平でフレンチー
～放光寺(源頼朝の御家人・甲斐源氏)～JUN ワイナリー
- ◆ 帰着時間予定 練馬文化会館入り口前 18 時ころ

1、ぶどう寺(国宝)大善寺



● 上の画像は「国宝・薬師堂」です。本堂の中に、薬師三尊像を安置しています。鎌倉時代の弘安 9 年(1286)に建立されました。昭和 30 年に国宝に指定された見事な素晴らしい御堂です。

大きさは24m 四方で、5間の正面は、中側の 3 間は両開きの扉が付き、上部の縦棧の連子格子になっています。両側面の正面寄りと、裏面中央には、出入口があります。また、幅広の縁側が四方を取り巻いています。

上を見ると流麗な線を持つ檜皮葺での屋根は、落ち着きを見せ、鎌倉時代の力強さを現わしています。

内部は内陣・下陣に分かれ、内陣には須弥壇を設けて厨子(国宝)を置き、薬師如来をお祀りしています。その両脇には日光菩薩、月光菩薩、更に十二神像を配しています。

* 国宝 大善寺 本堂一棟、付属 厨子一基



日光菩薩



薬師如来



月光菩薩

● 養老 2 年(718)行基菩薩が甲斐の国を訪れた時、勝沼の柏尾にさしかかり、田川の溪谷の大石の上で修業したところ、満願の日、夢の中に手にブドウを持った薬師如来が現れました。行基菩薩はその夢を喜び、早速夢の中に現れたお姿と同じ薬師如来像を刻んで安置した。現在の薬師如来(国重文)は、それをもとに平安前期に作られたものと思われます。病苦を除く薬師如来として、早くから信仰されてきました。

本尊を中心に日光菩薩、月光菩薩を配し、三像ともにサクラ材の一本造りです。

● 薬師三尊像は秘仏として厨子の中に納められ通常は拝むことはできません。しかし、五年に一度、扉が開かれお姿を拝むことができます。

像高	薬師如来	86.7cm
	日光菩薩	102.6cm
	月光菩薩	101.8cm

2、(国宝) 大善寺本堂内の仏像

日光菩薩・月光菩薩・十二神像



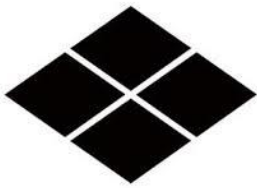
● 日光菩薩・月光菩薩・十二神像ともに鎌倉時代の嘉禄 3 年(1227)に仏師「蓮運」により制作された見事なお姿です。日光菩薩・月光菩薩はヒノキ材の寄木造で両目には水晶製の玉眼がはめ込まれています。頭部は華やかな高髻(こうけい:奈良時代の女性貴族の髪型)を結い、卵型のお顔には端正な目鼻立ちを刻み表情は引き締まっています。

像高	日光菩薩	248.0cm
	月光菩薩	247.0cm

● 十二神像は十二夜叉大将ともいい、それぞれ 7 千の夜叉を率いて薬師を敬う者を護るとされる薬師如来の眷属(けんぞく:侍者、従者、随伴者、取り巻きのこと)。皮革の甲冑に身を固めた武将姿で、守護神らしい形相をしています。

鎌倉時代に作られ、像高 145.9cm~138.2cm ヒノキの寄木造りで、日光菩薩・月光菩薩と同じく玉眼がはめ込まれています。鎌倉彫刻らしい写実的な表現の中にも格調の高さを感じさせます。見事で圧巻です!!!

3、武田勝頼と大善寺



武田菱



理慶尼

● 天下統一を競った武田信玄の亡き後、武田勝頼は、織田・徳川の連合軍の近代装備と物量の前に敗退し、天正十年(1582)、岩殿城で再興を図ろうと葦崎の新府城を出発し、途中この柏尾山大善寺で戦勝祈願して一夜を明かした。

しかし、武田家再興がかなわないと見た家臣の大半は夜半に離散し、又、岩殿城主の小山田信茂の裏切りに合い、勝頼主従は天目山を目指したが、織田・徳川の連合軍に行く手を阻まれ、ついに三月十一日、勝頼以下一族と家臣は自刃し、「新羅三郎義光」以来五百年続いた甲斐源氏も滅亡しました。

その一部始終を目撃した理慶尼(信玄の従妹 82 才で没)が記した「理慶尼記」は、また「武田滅亡記」ともいわれ、尼の住んでいたこの大善寺に今なお大切に保管されています。

勝頼を最後まで裏切ることなく守り戦死した家臣たちの子孫は、後に徳川家康に重用され、江戸時代には各地の城主に任命されています。勝頼の戦勝祈願を行った大善寺には、その子孫たちから寄進された文殊菩薩、毘沙門天が、今なお大切に安置されています。

4、近藤勇と大善寺 (柏尾坂の戦い)



(中央に近藤勇、右側の奥に大善寺の山門が描かれています)

● 旧幕府軍と新撰組は慶応 4 年(1868)薩摩藩兵を中心とする新政府軍と、鳥羽伏見の戦いに敗れ、大阪から江戸へ帰還しました。その後、近藤勇を隊長とする「甲陽鎮撫隊(こうようちんぶたい)」として、新政府軍の東進を阻止する目的で、甲府城の接收を命ぜられ甲州街道を西に進みます。しかし、板垣退助率いる新政府軍 3000 の

一隊はわずかの差で甲府城に入城してしまいました。近藤は援軍要請に土方歳三を江戸に向かわせる一方、自身は西進し、3月5日勝沼の大善寺の西側に先頭、山門と東側に、隊員 300 名を布陣したが、戦闘は3月6日正午から始まりましたが、わずか2時間ほどで甲陽鎮撫隊は121名で江戸へ敗走することになったといひます。

5、坂本ぶどう狩り園



園主 坂本和彦さん



坂本園主の12年かけて開発した「天山」

勝沼ぶどうの歴史・（雨宮勘解由伝説）・

● 文治2年(1186)上岩崎の住人、雨宮勘解由は付近の山「城の平」で行われるお祭りへ(毎年3月27日)例年のように村人と一緒に参列するため山道にかかった。ところが偶然にも、その路傍に、一種のつる性の植物を発見した。これは未だかつて見たことのない植物であり、一緒にいた村人にも相談してこれを自園に栽培することにした。

それから5年の春夏を経て、そのつるは繁茂し、ついに建久元年(1190)の5月に初めて30余の房が結実した。勘解由は、この珍しい果実に自ら

が驚き、栽培の努力の賜と思いその年の秋の実りに期待したのであった。

そして、8月下旬にその果実はことごとく熟し、色は朱紫のように、味はきわめて甘美であったので、勘解由は、この珍しい果実の繁殖方法を研究し、同8年(1197)ようやく13株となった。

この年、鎌倉征夷大將軍源頼朝が長野善光寺に参詣の際、そのぶどうを三個ご献上した。

その後、子孫の雨宮織部正は領主武田信玄へぶどうを献上し、非常にその美味をほめられ太刀を賜ったといわれている。

コラム

2007年8月25日の山梨日日新聞で、特大粒新品種として「天山」が紹介されました。

一粒が世界最大のブドウで、大きい粒だと50グラムにもなります。12年もの間、研究農家の本家「坂本和彦」によって試行錯誤を繰り返した末に商品化されました。

食味は梨のような食感がして、続いて口の中にはメロンの味がする。そんな感じです。

ぶどうを食べているというより違ったフルーツを食べている感じとも言われます。

坂本ぶどう園の取引先の高級フルーツ店では一房なんと1万5千円で販売されているとのこと。



6、シャトー勝沼とレストラン鳥居平

シャトー勝沼



● シャトー勝沼HPより

* 生まれた時からそこにワインがありました。

畑でぶどうをつくり、いいものが穫れた時に
わずかながらのワインをつくる。

そんな農家に生まれました。

納得のいくワインに出会うためには、自らの手
でぶどうをつくりだす。

それが当然であり自然であるとうけとめてき
ました。

* ワイン造りに魅せられて30年

私たちの歩んできた道を人は“こだわり”とい
います。

味にこだわる。香りにこだわる素材に製法に



こだわる。すべては豊かに流れる時にめ
ぐり会うために。

もしかしたらこだわりとはとても自然で、
夢に満ちた出来事をいうのかもしれない
ん。

* 勝沼最古のワイナリー「シャトー勝沼」
のあゆみ

甲府盆地の東側に位置する勝沼町は、寒
暖の変化が大きく、ブドウの栽培に適して
おり、日本最古のブドウ栽培の歴史をも
つ。明治10年(1877)、ブドウ栽培を行って
いた創業者・今村與三郎がワイン醸造を
行ったことから、シャトー勝沼のはじまり
である。本場フランス仕込みのワインづく
りを手がけて以来 130 余年。初代から三
代にかけ今村家の家訓として今月まで守
り伝えられてきた「こだわり」があります。
「ぶどうの栽培から醸造、販売まで、全
て一貫した手作り」つまり人任せにしない
というのが、こだわりのワインづくりのポリ
シーです。

7、



● 昼食はシャトー勝沼直営の
「レストラン鳥居平」でゆったり
とした時間で美味しいフレンチ
をいただきます。

ワイナリーの見学。ワインの試
飲、ワインの直売コーナー、ま
た、水晶の産地の山梨ならで
はの「ジュエリー英」も立ち寄
ってみても楽しく面白いと思っ
ています。



レストラン鳥居平 <ショッピング2階にございます>

8、放光寺



安田義定公

● 放光寺は元暦元年(1184)源平合戦で功績をたてた安田義定が一の谷の戦いに戦勝したことを記念して創立したとなっています。

義定は源義家の弟・新羅三郎義光の孫にあたります。

治承4年(1180)の以仁王の令旨に従って平家追討に挙兵し、源頼朝の旗揚げに協力し、頼朝の使節として甲斐に来た北条時政と富士川を下り、先鋒として活躍し、平維盛率いる2万の平家軍を蹴散らせてしまう。

この功績により遠江守護に任じられている。また、寿永2年(1183)七月平家追討使として東海道より京に上り、八月には遠江守に任じられ従五位に叙されている。

元暦元年(1184)木曾義仲追討の源義経の副大将として活躍。その後壇ノ浦の戦いに参戦し、平家を滅ぼす。

文治五年(1189)義経が自刃した後、奥州藤原滅亡の軍に加わり活躍している。

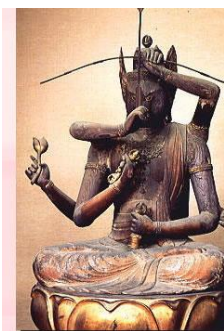
建久四年(1193)息子の越後守安田義資が梶原景時の罠にかかり、名越邸にて誅殺され、翌五年八月には、梶原景時の讒言により謀反の嫌疑を受け甲州に落ち延び、ここ当山で自刃したと伝わる。

鎌倉幕府創建の一翼を担った安田義定であったが、甲斐源氏として余りにも独立の勢力が強すぎたのが、源頼朝の恐れとなったのかもしれません。

木造金剛力士像



木造大日如来坐像



木造愛染明王

木造不動明王立像



● 放光寺の文化財

* 木造金剛力士像(国重文) 奈良仏師成朝
阿形像 263cm 吽形像 264cm

* 木造大日如来坐像(国重文)
12世紀後半の京の円派系の仏師と考えられる。

総高 96.4cm

* 木造愛染明王坐像
12世紀後半の京の円派系の仏師と考えられる。

像高 89.1cm

* 木造不動明王立像
平安後期の製作と考えられる
像高 148.4cm

9、シャトーJUN

シャトーJUN ホームページより



● ファッションメーカー「JUN」のワイナリーとして、昭和 54 年(1979)に誕生しました。小さなワイナリーだからこそ、ぶどうに正直なワインを目指しました。栽培農家と一緒に、より良いワインをお届けしようと日々励んでいます。ぶどうは甲州種を中心に、欧州系品種セミヨン、シャルドネなどのほか、カベルネソービニヨンやメルロなども少量ながら栽培しています。



醸造責任者 仁林 欣也さん



●屋根には風見鶏、とってもお洒落な外観のワイナリーですが、名前でピンときませんか？そうです。アイビーファッションでおなじみの「JUN」が経営母体となっているワイナリーです。

伝統ある産地の勝沼では比較的新しいワイナリーですが、創業は 1979 年ともう歴史も充分にあります。自社畑は勝沼町内に 3 か所あり、それ以外には契約農家があり丹念に栽培しているそうです。

ショップの奥には窓越しに醸造設備が見えます。そんな小さなワイナリーがワインのディスプレイやラベルデザインなどモダンなセンスが素敵です。

今回の見学は仕込みホヤホヤのワインを試飲できるかも？と、責任者の仁林さんがおっしゃっていました。期待して訪ねましょう！！

